

信仰奨励章取得のための 手引き

平成26年5月改訂



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

信仰奨励章取得のための手引き

目次

～はじめに～	2
◇ ちかい	
◇ おきて	
1. 信仰奨励章設置の願い	3
【参考①：ベーデン・パウエルという言葉】	3
2. 信仰奨励章の記章	4
3. 信仰奨励章取得への取り組み	4
4. 取得課目	5
5. 支援のポイントとねらい	5
(1) 取得課目2～4は、スカウト・サービスを中心に上げています。	5
① 「スカウトと信仰心」のつながり	6
【参考②：ベーデン・パウエルという言葉】	6
② スカウト・サービスとは	6
【参考③：各教宗派別スカウト・サービスの一例】	7
③ スカウト・サービスの実施方法	8
【参考④：ベーデン・パウエルという言葉】	8
【参考⑤：スカウト・サービスの進め方】	9
【参考⑥：スカウト・サービスの実施方法の一例】	10
【参考⑦：おきて別 ベーデン・パウエルという言葉】	15
(2) 取得課目5～6は、 日日の善行や奉仕活動として実践することを取り上げています。	18
① 日日の善行と奉仕活動の考え方	19
② 神（仏）からいただいた贈り物	19
【参考⑧：アンノウスカウト物語と解説】	19
【参考⑨：ベーデン・パウエルという言葉】	21
(3) 取得課目7～8は、明確な信仰に触れることを取り上げています。	21
① 明確なる信仰への入り口へ	22
② 宗教儀礼や宗教行事などの形から入る	22
(4) 取得課目9は、 ラストメッセージの意味を深く掘り下げて、考えることを取り上げています。	22
① ラストメッセージの意味を考える	23
② 信仰奨励章は、取得後も続きます	23
【参考⑩：ベーデン・パウエルのラストメッセージ】	23
6. 信仰奨励章交付申請方法について	24

信仰奨励章取得のための手引き

～はじめに～

◇ ちかい

私は名誉にかけて、次の3条の実行をちかいます。

1. 神（仏）と国とに誠を尽くしおきてを守ります。
1. いつも、他の人々をたすけます。
1. からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います。

◇ おきて

1. スカウトは誠実である
スカウトは信頼される人になります。
真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。
2. スカウトは友情にあつい
スカウトはきょうだいとして仲よく助け合います。
すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。
3. スカウトは礼儀正しい
スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。
言葉づかいや服装に気をつけ、行いを正しくします。
4. スカウトは親切である。
スカウトは、すべての人の力になります。
幼いもの、年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします。
5. スカウトは快活である
スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。
不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。
6. スカウトは質素である
スカウトは、物や時間を大切にします。
むだをはぶき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します。
7. スカウトは勇敢である
スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。
どんな困難なことがあってもくじけずに、新しい道をきり開きます。
8. スカウトは感謝の心をもつ
スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。
お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します。

信仰奨励章取得のための手引き

1. 信仰奨励章設置の願い

日本連盟教育規程 1-2-1 信仰の奨励

本連盟は、本運動に参加する者が、明確な信仰をもつことを奨励する。

日本連盟教育規程の一般原則には「本連盟は、本運動に参加する者が、明確な信仰をもつことを奨励する」ことに基づき、宗教章が設定されています。

しかし、宗教章への取り組みは、教宗派を育成団体とする団に所属するスカウトや、富士章取得を目指すベンチャースカウトなど、一部のスカウトに限られているようです。

また、富士章を目指すベンチャースカウトの多くは、ベンチャー年代になってから取り組みを始めるために、宗教章を取得することが目的となっているように見受けられます。

教育規程に示されている「明確な信仰をもつ」ことは、自分が信ずる宗教をはっきりさせるという意味合いにも取れます。しかし、日本では宗教と信仰という言葉の意味合いに少し違いがあるのかもしれない。

世界に目を向けると、宗教と信仰は、ほぼ同じ意味で捉えられていることが多いのです。なぜなら、宗教を信ずる文化が整っていることが多く、「宗教即生活」という、宗教の教えを基準とした生活が成り立つからで、ボーイスカウトの創始者であるベーデン-パウエルも、最初から宗教ありきで示されています。では、日本に目を向けると、どのように捉えられるのでしょうか。

宗教とは「一定の神仏が明確であり、その教えに則って生活をしていく」とされています。

一方、信仰とは、明確に信ずる神仏は特定していませんが、その恩恵は、人々の善意によってあられ、人々の恩恵を受けながら生活をしていることに感謝の心を持ち、その心を持って、日々の善行ができる生活をする」とされています。

その結果、自然や人の心は人間の意思では自由に動かすことができないことに気づき、より神仏や創造主の存在が明確になり、やがて自分にとってふさわしい神仏との出会いと信じていく心と行動が伴ってきます。これこそが宗教との出会いです。それは、他人から強要されることなく、様々な出会いから自ら求めていくものであります。このような、自然なプロセスを経た宗教との出会いへの導きこそが、信仰奨励章の設定に込められた願いなのです。

【参考①：ベーデン-パウエルの言葉】

「君たちが成功 —すなわち幸福— への道へ歩みをふみ出そうとするならば、無宗教ないかもの師の仲間にひき入れられるのを防ぐだけでなく、君の生活に宗教的基盤をもたせなければならぬ。その意味は、単に教会に行くとか、聖書の歴史を知るとか、神学を理解するとかいうことにとどまらない。多くの人々はそんなことはほとんど知らなくても、また勉強しなくても、心から宗教的なのである。宗教は非常に簡明に述べれば、次のことである。

第1に、神とは誰か、何か、を認識すること。

第2に、神が授けた生涯に最善をつくし、神がわれわれに望んでいることを行なうこと。これは、主として、他の人々に役立つことをするという事である」


(ローバリング・ツウ・サクセス 1963年版より)

信仰奨励章取得のための手引き

2. 信仰奨励章の記章

信仰奨励章は、「信仰心を高めるため」に設置された章であり、自分にふさわしい宗教の出会いまでの前段階とする位置づけであります。このような願いから、記章には教宗派のかたよりのない、スカウト精神に基づき、スカウト章を図柄とし、ボーイスカウト部門を基準に置いていることから、帽章の色と合わせて、金色としています。また、背景は、大自然をイメージとして、緑としました。

日本連盟教育規程 信仰奨励章に関する基準 7-6-3 様式

様式・図柄	寸法	地色	着用部位その他
	4 × 1.5 cm	緑	左胸ポケット、 年功章の上方に着用。

※プロジェクトアワード（プロジェクトバッジ）に並列の場合には、一番内側に縫い着ける。

3. 信仰奨励章取得への取り組み

日本連盟教育規程 1-2-2 スカウトタウン・サービス

スカウトタウン・サービスは、本運動に参加する者各自の信仰心を高揚するために行われ、それは「ちかい」と「おきて」の実践をより深めるものである。

信仰奨励章は、前項でも述べたように、特定の教宗派について取り扱うものではありません。日本連盟教育規程 1-2-2 の一般原則に「スカウトタウン・サービスは、本運動に参加する者各自の信仰心を高揚するために行われ、それはちかいとおきての実践をより深めるものである」とあるように、日常とスカウト活動を通じて、スカウトタウン・サービスの取り組みを重視しながら、ちかいとおきての実践をより深め、信仰心への導きを行うことをうながすものです。

この意味から、信仰奨励章は宗教章の前段階と位置づけ、また専門的知識がなくても日頃からスカウトと接する機会が多い、所属隊の隊長が認証します。そのためにも、成人指導者自らが、率先して信仰奨励章の取得課目を実践し、信仰奨励章の意味するところを明確にしなければなりません。

このように、信仰奨励章の意味するところを踏まえると、宗教章に挑戦する以前に取得することが望ましく、また継続した取り組みとしていくためにも、初級スカウト以上から取得でき、平成23年9月施行のベンチャープログラム改正に伴い、ベンチャー章と隼章の進歩課目にも組み込まれることとなりました。すべての隊のスカウトが、早い段階からこの章に取り組むことを期待しています。

日本連盟教育規程 7-5-4 初級（項目追加）

(6) 信仰奨励章に取り組み、ボーイスカウト終了時まで取得するか、又はその取得に努力する。

日本連盟教育規程 7-5-9-1 ベンチャー（新設）

(4) 信仰

7 信仰奨励章を取得していないスカウトは、信仰奨励章を取得するか、又はその取得に努力をする。

日本連盟教育規程 7-6-0-1 隼（新設）

(4) 信仰

7 信仰奨励章を取得する。

信仰奨励章取得のための手引き

4. 取得課目

初級スカウト以上のボーイスカウト及びベンチャースカウトは、次の取得課目を満たしたことを隊長により認証されます。

日本連盟教育規程 7-6 信仰奨励章

7-6-1 信仰奨励章の取得要件

1. 初級以上のボーイスカウト、またはベンチャースカウトであること。
2. 隊集会やキャンピング・ハイキングでスカウトタウン・サービスに参加する。
3. スカウトタウン・サービスで、自分ができる役割を果たし、ちかいとおきてを日常で実践したこと、感じたことを発表する。
4. 隊集会やキャンピング・ハイキングでのスカウトタウン・サービスで主要な役割を果たす。
5. 「アンノウンスカウト」の逸話を調べ、適切な表現形式（劇、紙芝居など）で隊の仲間や他の人々に伝え、自分の「日日の善行」の実践のようすについて話す。
6. 班で年間を通じて行える奉仕活動を考え、隊長の指導のもとに実施する。
(ターゲットバッジG3「近隣奉仕」5と共通)
7. 自分の家の宗教（派）か、興味を持った宗教（派）の宗教儀礼、宗教行事、またはスカウトタウン・サービスに参加する。
8. 自分の家の宗教（派）か、興味を持った宗教（派）の教導職から信仰や宗教について話を聞く。
9. B-Pのラストメッセージを読んで、班集会で話し合う。
(ターゲットバッジA8「B-P」6と共通)

5. 支援のポイントとねらい

取得課目のねらいは、スカウトタウン・サービスの取り組みから始まり、実践的な内容へとつなげ、最終的には明確な宗教に触れるところまでを構成していますので、番号順に取り組むことが望ましいと考えられます。

(1) 取得課目2～4は、スカウトタウン・サービスを中心に取り上げています。

2. 隊集会やキャンピング・ハイキングでスカウトタウンに参加する。
3. スカウトタウン・サービスで、自分ができる役割を果たし、ちかいとおきてを日常で実践したこと、感じたことを発表する。
4. 隊集会やキャンピング・ハイキングでのスカウトタウン・サービスで主要な役割を果たす。

～支援のポイント～

- ・スカウトタウン・サービスについては、隊長が主宰するものとし、5回程度の参加の実績をもって認定する。
(取得要件2に該当)
- ・実践したことや感じたことの発表内容は、隊長だけではなく、班や隊の仲間にも、認めてもらう。
(取得要件3に該当)
- ・スカウトタウン・サービスの場面や役割（司会進行役・企画立案等）については、隊長と相談しながら進める。
(取得要件4に該当)

信仰奨励章取得のための手引き

① 「スカウトと信仰心」のつながり

ボーイスカウトの創始者ベーデン-パウエルは、「神（仏）を信じ、そのおきてに従わない人は決して良い人と言えない。したがって、すべてのスカウトは信仰を持つべきである」と説いています。

また、神（仏）の望んでいることである「無私の善意と協力の精神」の意味するところとは何か、またその目的は「何か」を追求するためには、信仰心を持つことが必要であるとしています。

信仰心については、信仰奨励章設置の願いの中で触れていますので、省略いたしますが、この心は、大自然に接することと、「無私の善意と協力の精神」を、日々の実践として行うことによってつちかわれ、それは、スカウト活動をしている時に留まらず、日常生活の中で実践することが必要であると説いています。

実践内容は、「おきて」によって示されていますが、この「おきて」に対する想いは、信仰心によって捉え方が違ってきますので、信仰心が深まっただけ、実践内容や実践に対する想いも深まってくるのです。

【参考②：ベーデン-パウエルの言葉】

「自然研究の目的は、創造主である神を実感させる心を発達させ、自然の美しさが判るような感覚を注入することである」
(ガールスカウト日本連盟発行「B-Pのことば」より)

「この運動における我々の目的は、地球上に神の国をもたらすことができるように、若い人たちの生活の中に無私の善意と協力の精神。そして、それらを日々の実践として教え込むものである」
(1926年7月2日 スカウト/ガイドコミッショナー会議より)

② スカウトタウン・サービスとは

教導職が中心に行う宗教儀礼ではなく、スカウト活動の中で行う、スカウトが自分たちで進める宗教儀礼または信仰心を高めるための礼拝のことです。教育規程1-22に「スカウトタウン・サービスは、スカウト各自の信仰心を高揚するために行われ、それはちかいとおきての実践をより深めるものである」と定められているように、明確な信仰を持つことへの糸口を求めるものです。

上記の意味から、スカウトタウン・サービスとは、「教導職が不在時の礼拝」として捉えることができ、スカウトのためのスカウトによるものとして、いつ行ってもよく、隊集会、キャンプやハイキングの時など、どんな場所でも行えるものです。

ただし、信仰奨励章を取得する上では、隊集会やハイキング、キャンプなどで隊長が主宰するものを前提とします。

参考として、宗教章を設定している各教宗派別スカウトタウン・サービスの一例を掲載します。

信仰奨励章取得のための手引き

【参考③：各教宗派別スカウトタウン・サービスの一例】

1. 神道

まず、手を洗い、口をすすぎましょう。所属神社の方に向かって、整列、服装点検、脱帽、黙想

- 一. 祓詞奉唱（二拝、全員で奉唱、二拝二拍手一拝）
- 二. 神拝詞奉唱（二拝、全員で奉唱、二拝二拍手一拝）
- 三. 拝礼（代表者が数歩前に出て二拝二拍手一拝、全員これに合わせる）
- 四. 敬神生活の綱領唱和（先導者に続いて一条ずつ全員で唱和）
- 五. 歌
- 六. 講話（指導者のあいさつ）

2. 仏教（全宗派の合同プログラムの一例）

- 一. 合掌、礼拝
- 二. 衆会（歌）または、Vandana（パーリー語 敬礼文）
- 三. Ti-sarana（パーリー語 三帰依文）
- 四. 聖句朗読（聖典より）－おきて－に関するものを選択するのも良い
- 五. おはなし
- 六. 歌
- 七. 合掌、礼拝

3. キリシト教（聖公会・カトリック）

- 一. 聖歌
- 二. 主の祈り
- 三. 聖書朗読
- 四. 説教
- 五. 祈り
- 六. 聖歌

4. キリシト教（プロテスタント）

- 一. 讃美歌
- 二. 祈禱（または、主の祈り）
- 三. 聖書朗読
- 四. 説教
- 五. 祈禱
- 六. 讃美歌

信仰奨励章取得のための手引き

5. 金光教

- 一. 拝礼
- 二. 天地書附奉体^{てんちかきつけ}
- 三. 拝礼
- 四. 歌
- 五. 教話

6. 世界救世教

- 一. 天津祝詞・善言讃詞奏上^{あまつのりと ぜんげんさんじそうじょう}
- 二. 御讃歌奉唱^{ごさんか}
- 三. み教え拝読^{はいどく}
- 四. お話
- 五. ご浄霊^{じょうれい}

ここで、注意しなければならないのは、教育規程1-24の団の宗教活動「一つの教宗派に属する者からなる団は、その教宗派の儀式及び行事に参加することを奨励する。②「各種の教宗派に属する者からなる団は、特定教宗派の宗教活動を行ってはならない。ただし、おのおのが自派の儀式及び行事に参加することは奨励する」とある点です。

全員が同一教宗派のスカウトで組織されている団の場合、本来の形である、その教宗派に基づいた礼拝（スカウトOWN・サービス）を実施することが可能になりますが、団が各種の教宗派に属するスカウトで組織されている場合、特定教宗派の礼拝（スカウトOWN・サービス）を実施することができません。

そこで、次の項では、信仰奨励章に挑戦することに合わせた実施方法について説明します。

③ スカウトOWN・サービスの実施方法

信仰奨励章は、特定の教宗派について取り扱うのではなく、宗教章の前段階と位置づけているため、スカウトOWN・サービスに示されている、礼拝の部分については、信仰奨励章設置の願いの中でも触れましたように、広義の意味として“自分自身の心と向き合う時間”と捉え、日常とスカウト活動を通じて、実施できるようにします。

【参考④：ベーデン-パウエルの言葉】

「君は神から授かった知性と能力とをもって、どのような最上の奉仕ができると思っているのかね？もしわからない点があるならば、君の良心、すなわち君の体内における神のみ声に聞きなさい。神は即座に何を君に求めているかを告げるだろう。一般的にそれは君の善意から与えるもの、しかも自由に与えるということである」

（ローバリング・ツウ・サクセス1963年版より）

信仰奨励章取得のための手引き

信仰奨励章に挑戦するために、スカウトタウン・サービスは、一方向的な感話を聞いて、各人の信じる神（仏）にお祈りをする時間を設けるという形式ではなく、その日の活動テーマに合った、「おきて」に基づく実践目標を設定し、約束する機会とします。

「おきて」を通じて、何が自分にできるかを考え、そして実施し、一日を振り返る機会とします。当然、「自分ができることを約束する機会」を設けるということは、「結果はどうでしたか？」という振り返る機会も必要になるということです。

参考として、「スカウトタウン・サービスの進め方」および「スカウトタウン・サービスの実施方法の一例」を紹介します。

【参考⑤：スカウトタウン・サービスの進め方】

・ 司会進行役

隊や班単位によって、隊付や上級班長、班長や次長となりますが、スカウトタウン・サービスが活動の中で、定着化することによって、誰もが役を担うことができるようになります。

・ 内容

内容は、成人指導者で立案していきますが、これも回数を重ねていくことで、スカウト自身が企画立案できるようになってきます。

・ 単位

スカウトタウン・サービスの単位は、隊・班単位となり、状況に応じて変えることが望ましいです。

・ 進め方（例）

1. 黙想（しずかに目を閉じ、自分自身の心を落ち着かせる）
2. 歌（できるだけ活動のテーマに合ったものや心が落ち着く歌にする）
3. おきて唱和（活動テーマに合うおきてを一つ選ぶことによって、印象づける）
4. B-Pの言葉（B-Pにかかわらなくても良いが、活動テーマに合った短い話しにする）
5. 発表（活動の始めは、おきてに基づき、自分ができること、活動の終わりは、おきてに基づき、自分ができたことやできなかったことを発表する）
6. 黙とう（自分の心と向き合う時間。活動の始めなら、おきてに基づき、自分が実践できることを心にちかい、活動の終わりなら実践できたことを感謝し、実践できなかったことは反省する）

信仰奨励章取得のための手引き

【参考⑥：スカウトタウン・サービスの実施方法の一例】

A. テーマ：「身につけよう」

形態：U字形または縦列にならぶ（隊単位：司会は指導者）

朝の進め方	内 容
①黙 想	（しずかに目を閉じ、自分自身の心を落ち着かせる）
②歌	<p>ソング「そなえよつねに」</p> <p>1. 三つのちかい 名誉かけて ボーイスカウト おきて守り 人のために 備えよ常に</p> <p>2. 強き体 かたき心 ボーイスカウト 築きたてて この世のため 備えよ常に</p>
③おきて唱和	<p>おきて「スカウトは誠実である」</p> <p>（全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和）</p>
④B-Pの言葉	<p>題名「忍耐」</p> <p>「本当のスカウトというのは、最も辛抱強い人のことである。いっぺんに上手くいかなくても心配しないで静かに待ち、最後に「成功する」まで固い決意で働く。それが小さなものであろうと大きなものであろうと」</p>
⑤感 話	<p>題名「お互いに支え合って生きる世界」（指導者が行う）</p> <p>日本連盟発行「信仰奨励のためのスカウトヤーン第2集」より（抜粋）</p> <p>スカウティングは、「パトロールシステム」によって展開されます。パトロールシステムって、しみじみと考えたことがありますか？一人ひとりの顔が違うように、性格や能力もそれぞれに違います。それぞれに違う能力をグループの中で最大限に発揮し合い、お互いがお互いを支え合い、助け合って、パトロールのチームワークを最高に作り上げていくことです。</p> <p>お経の中に「青い色の花は青く輝き、黄色の花は黄色に輝き、赤い色の花は赤く輝き、白い色の花は白く輝いている」と理想の世界について描いてあります。つまり、それぞれがそれぞれの持ち味のありつたけを発揮して、お互いに照らし合い、他のものをひきたてている世界だと述べられています。</p> <p>私たちは、遠い遠い昔から、次々と受け継がれてきた「いのち」を、親を通して恵まれました。また、世界中のたくさんの人やいろいろなもののおかげによって、今、生きてではなく、「生かされて」います。お互いにお互いの「いのち」を支え合って生きているのです。</p>

信仰奨励章取得のための手引き

朝の進め方	内 容
⑥黙とう	<p>人のいのちも、物のいのちも大切に、感謝の心を忘れず、その中で自分にできること、自分の一番得意とすることをのびし、奉仕していくこと。それが21世紀の「地球」というパトロールの中でのスカウトの仕事だと思ふのです。</p> <p>(生かされている自分に感謝し、おきてに基づき、実践できることを心にちかう)</p>

夜の進め方	内 容
①黙 想	(しずかに目を閉じ、自分自身の心を落ち着かせる)
②歌	<p>ソング「夜の歌」</p> <p>遠き山に 日は落ちて 星は空を ちりばめぬ きょうのわざを なしおえて 心かろく やすらえば 風は涼し このタベ いざや楽しき まどいせん</p>
③おきて唱和	<p>おきて「スカウトは誠実である」</p> <p>(全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和)</p>
④B-P の言葉	<p>題名「忍耐」</p> <p>「強い意志を持った人にとって手に負えないものは何もない。成功したいという意志があれば、成功するだろう。例え、何が起ころうともである」</p>
⑤おきての 実践発表	(おきてに基づき、実践したことを指導者代表1名が発表)
⑥黙とう	(自分の心と向き合い、実践できたことは感謝し、できなかったことは反省する)

B. テーマ：「さらに深めよう」

形 態：円形になる（班単位：司会は班長）

朝の進め方	内 容
①黙 想	(しずかに目を閉じ、自分自身の心を落ち着かせる)
②歌	<p>ソング「平和の騎士」</p> <p>1. 我ら平和の騎士ぞ 正義のために勇みて進む 輝く朝の光 そは我らの希望のしるしなり ラララ 世界の友 ラララ いざ進め ともに力をあわせ 理想の峰を目指して進め</p>

信仰奨励章取得のための手引き

朝の進め方	内 容
②歌	2. 大いなるわが父の 残せし後を慕いて進む その誠の道は 我らの行く手を明るく照らす ラララ 世界の友 ラララ いざ進め ともに力をあわせ 理想の峰を目指して進め
③おきて唱和	おきて「スカウトは勇敢である」 (全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和)
④B-Pの言葉	題名「困難」 「困難な仕事に取り組まなければならない時は、それを助けてくれるよう神 にお願いしなさい。そうすれば、神はあなたに力を与えてくれるだろう。 しかし、それでもなお、あなた自身に取り組まなければならないことだ」
⑤おきての 実践目標	(一人ひとりが今日一日、おきてに基づき、実践したいことを発表する)
⑥黙とう	(おきてに基づき、実践できることを心にちかう)
夜の進め方	内 容
①黙 想	(しずかに目を閉じ、自分自身の心を落ち着かせる)
②歌	ソング「ひとひの終わり」 1. 星かげさやかに 静かに更ける 集いの喜び 歌うはうれし 2. 名残りはつきねど まどいは果てぬ 今日のひとひの幸 静かに思う
③おきて唱和	おきて「スカウトは勇敢である」 (全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和)
④B-Pの言葉	題名「幸福」 「神は私たちが人生を幸福に楽しむよう、この世界に送られたものと私は信 じている。幸福を手にする本当の方法は、他の人に幸福を与えることであ る」
⑤おきての 実践発表	(おきてに基づき、自分ができたことやできなかったことを発表する)
⑥黙とう	(自分の心と向き合い、実践できたことは感謝し、できなかったことは反省 する)

信仰奨励章取得のための手引き

C. テーマ：「感謝のこころ」

形態：自由に座る（隊単位：司会は上級班長）

朝の進め方	内 容
①黙 想	（しずかに目を閉じる）
②歌	ソング「名誉にかけて」 つつましくささげん 誠を神に 誇りもてささげん 誠を国に 感謝の誠は 日々の善行に 強き体と 良き心もて とわに求めゆかん 名誉にかけてぞ
③おきて唱和	おきて「スカウトは感謝の心をもつ」 （全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和）
④B-P の言葉	題名「班長たち」 「班長になった時、覚えておかなければならないことは、自分が本当に大きな責任と重要な地位についているのだということである。というのは、あなたは多くの班員たちの面倒を見なければならなくなるし、班員はあなたのお手本と指導で人格を形成することになるからだ。従って、もしあなたが怠け者になれば班員らもそうなることだろうし、逆にあなたが立派なスカウトになれば、班員らもほとんどそうなるものだ。 あなたは自分の班を導いていかなければならない。そう、自分自身を信頼できる時だけ、班員たちの信頼を得られる。そして、自分の仕事を充分によく知っている時にだけ、自分に自信を持つことができるのである。 あなたはあなた自身の個人的なお手本を示すことによって、完全に指導できるのだということを忘れてはならない。私の言いたいのはそのことで、これは成功を手にする簡単な方法なのである。そして、これは簡単な方法だということだけでなく、この方法しかないのである」
⑤グループ 対話	今日一日、おきてに基づき、実践目標を立てる（班単位：司会は班長）
⑥黙とう	（おきての実践目標を必ず実行することを心にちかう）

夜の進め方	内 容
①しずかに	（全員がろうソクを手に持ち、火をつけて座る）
②歌	ソング「営火の祈り」 火をともしごとに ひざをかがめ 恵みのみ神に 祈りまつれ 祈りはほのおと 立ちのぼりて 感謝の心を ここにみたさん

信仰奨励章取得のための手引き

夜の進め方	内 容
③おきて唱和	おきて「スカウトは感謝の心をもつ」 (全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和)
④B-Pの言葉	題名「祈り」 「祈りは心からするもので、暗記するものではない。私が個人的に好む祈りの主な原則を言うならば、祈りは短く最も簡単な言葉を使って表現し、次の二つの考え方のうちのいずれか一つに基礎をおくべきである。 神から受けた恩恵または喜びを神に感謝すること。 神に何かお返しするのに必要な精神的な保護、体力または導きを求めること。」
⑤おきての 実践発表	(班全体でおきてに基づき、実践できたことやできなかったことを班長一人ひとりが発表する。発表の終わった班から火を消す)
⑥黙とう	(無事に過ごすことができたことに感謝し、自分の心と向き合い、実践できたことは感謝し、できなかったことを反省する)

D. テーマ：「新しいたびだち」

形 態：円形（隊単位：司会は隊付）

進め方	内 容
①しずかに	(円になって手をつなぐ)
②黙 想	(司会者から時計周りに手を握り、次の人がまた次の人へと手を握っていく。司会者まで返ってきたら、手を離し、歌に入る)
③歌	ソング「夢はかよう」 残りのほだ火あかく あたりは暗し 見つめる炎はえて 心の戸をたたく いつしか年はさかのぼり 共に歌えば 森に響く こここそ若者の天地 夢はかよう 那須の我ら楽しく集い 親しき友と語る あの広場の緑は 燃えるよ那須の このしばしの憩いに まのあたり ああB-P いつの日もいます
④おきて唱和	おきて「スカウトは快活である」 (全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和)

信仰奨励章取得のための手引き

進め方	内 容
⑤B-P の言葉	<p>題名「準備」</p> <p>「スカウトのモットーは、そなえよつねにである。これはつとめを果たすために、何時も心と身体の準備をしておくということだ。</p> <p>心の準備とは、どんな命令にも素直に従えるよう自分を律しておくこと、また起こるかもしれない事故や状況をあらかじめ考えておく。そうしておけば、必要な時に正しいやり方が分かっているので、進んでそれをするようになる。</p> <p>身体の準備とは、自分の身体を強く活動的にしておくことで、必要な時に的確な処置ができるようにしておく。そして実際にそれを実行することだ」</p>
⑥おきての 実践宣言	<p>(全員で宣言をする)</p> <p>活動期間中を振り返って、おきてに基づき、全員で帰ってからできるようなことを宣言文にまとめましょう。</p>
⑦黙とう	<p>(全員で手を繋ぎ、宣言したことを帰ってから実践することを心にちかう)</p>
⑧歌	<p>ソング「世界の総長」(しずかに目を閉じる)</p> <p>1. 我らを結び はらからとし 導き教えし ロード ベーデンパウエル 今は天に いたまえども いつのいつまでも 世界の総長</p> <p>2. 若き者らを 森に帰し 力を与えし ロード ベーデンパウエル 今もここに とともに語り とともに歌うたう 世界の総長</p> <p>3. 友と語らい テント肩に 野山にわけいり、草に座して まきを燃せば ああ慕わし 同じ火をたきし 我らの総長</p>

【参考⑦：おきて別 ベーデンパウエルの言葉】

1. スカウトは誠実である

- ・ スカウトは仕事を自分のつとめだと思ふからするのであって、ほうびをもらおうと思つてするのではない。
(スカウトたちに何ができるか1921年より)
- ・ まず、自分のつとめを果たすことである。そうすれば権利を手にすることができる。
(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版1946年より)
- ・ 立派なスカウトになまけ者はいない。立派なスカウトは、いつも人よりたくさんの仕事を
するものだ。
(ウルフ・カブスハンドブック決定版17版1977年より)

信仰奨励章取得のための手引き

- ・ つとめを果たしなさい。それがいかに面白くなく、誰からも注目されないものであったとしてもだ。
(ウルフ・カブス・ハンドブック決定版17版1977年より)

2. スカウトは友情にあつい

- ・ 大切なのは精神である。スカウトのちかいとおきてを本当に実行に移すなら、国家間の戦争や紛争はなくなる。
(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版1946年より)
- ・ スカウトは世界中いつ会っても兄弟である。スカウトはお互いが分かる秘密のサインを持っている。そして全ての人を助け、暖かくもてなす。スカウトは、自分の持っている最上の食事と施設をあなたに与えるが、その報酬は期待しない。それは、顔に唾を吐きかけることを期待しないのと同じことだ。スカウトは、「友人」や見知らぬ人（特に、それが婦人や子供であったなら）を救うには、自分の命を犠牲にするだろう。
(ボーイスカウトたちのための夜話1909年より)
- ・ スカウティングは、兄弟愛である。その目的は、定義できないあふれるような精神で、（それは神の下僕の精神である）階級、人種、国家、肌の違いを無視することを実行することである。
(隊長の手引き世界友愛版1944年より)

3. スカウトは礼儀正しい

- ・ 船は天国にも地獄にもなりうる。それは正にその船の乗組員次第である。もし、乗組員たちが無愛想で不平を言ったり、だらしなければ、彼らは不幸な船の仲間になるだろう。もし乗組員たちがスカウトたちのように陽気で最高のものを作り上げようと考えたり、お互いに譲り合い、自分たちの持ち場をきちんときれいにしておこなれば、彼らは幸せな仲間として航海を楽しめるだろう。
(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版1946年より)
- ・ 規律はどこでも必要である。しかし、大切なことは若い時に小さな事柄から実行することを学ぶことである。そうすれば、大きな困難や危険に直面した時には、それにきちんと対処できるようになるだろう。そのためには、まず第一に自分自身を抑制できるようにならなければならない。
(帝国の若い騎士たち1916年より)

4. スカウトは親切である

- ・ スカウトは他の人々、特にお年寄りや子どもたちを助けるためにはあらゆることをする。スカウトは一日に最低一つは善いことをする。
(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版1946年より)
- ・ 善行というものは、友だちにするだけではなく、知らない人、たとえ敵に対しても行いなさい。
(スカウティング・フォア・ボーイズ第26版1951年より)
- ・ 動物はあなたと同じように神がお造りになったものである。したがって、動物も我々の仲間である。動物は我々の言葉を話すことはできないが、我々と同じように喜びや苦痛を感じるができるし、親切にしてくれる人に感謝する気持ちを持っている。

信仰奨励章取得のための手引き

スカウトは、足、目、耳、口の不自由な人たちに何時も手を差し伸べる。従って、スカウトはまた我々の物言わない仲間の生き物たちにも善くしてやるのである。

(ある老狼のお気に入り 1921年より)

5. スカウトは快活である

- ・ 笑いが欠けていることは健康が損なわれていることを意味する。できるだけ笑いなさい。そうすれば健康になる。だから、笑えるときはいつでも笑い続けることだ。そして、できれば他の人たちも笑わせなさい。そうすれば、その人たちも健康になる。

もし、苦しんだり困ったりすることがあれば、それに向かって笑いかけなさい。このことを覚えておいて、自分をそうするようにすれば、本当に違いがでることが分かるだろう。

(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版 1946年より)

- ・ 困難はあなたがそれに向かって笑いかけ、取り組んだ途端に困難ではなくなる。
- ・ もし少年がいつも明るい顔つきで街を歩くなら、それは素晴らしいことだ。(このことを彼は隊長を見て学んだのだということをお忘れなく) 明るい顔はすれ違う多くの人たちを幸せにし、明るくする。そうでなければ、彼らはたくさんの不機嫌な顔に出会ったところである。不機嫌な顔も明るい顔も同じように人にうつりやすいものである。

(ザ・スカウター 1929年1月号より)

- ・ 笑顔は多くの人の心を開く秘密の鍵である。

(男らしさへの冒険 1936年より)

6. スカウトは質素である

- ・ 全てのスカウトたちは早起きの習慣を身につけるべきである。これは時間を節約する最も簡単で可能な方法である。

(ボーイスカウトたちのための夜話 1909年より)

- ・ 自分が手にしたものに満足し、それをできるだけうまく使いなさい。

(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版 1946年より)

- ・ 最も富んでいる人は、最も欲しがらない人である。

(人生における暗礁とその対処の仕方 1927年より)

7. スカウトは勇敢である

- ・ 危険が目前にある時は立ち止まって見ないことだ。見れば見るほどそれが嫌になるだろうから。突っ込んで行って大胆にその中に入ってみるといい。一旦中に入ってしまうと、実際は前に見えた半分も悪くないだろう。

(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版 1946年より)

- ・ 人生が全て砂糖みたいに甘かったらつまらないに違いない。塩はそれだけをなめたら苦いが、料理の一部分として味わう時は肉に味をつけてくれる。困難は人生の塩のようなものだ。

(ローバリング・ツウ・サクセス 1922年版の1959年再版より)

信仰奨励章取得のための手引き

- ・ 物事が悪く見える時は、ちょっと笑って歌う。つぐみが歌うように。「スティック・トゥ・イット (Stick to it, がんばれ)、スティック・トゥ・イット、スティック・トゥ・イット」そうすれば、物事はうまく運ぶだろう。成功への大きな第一歩は、失望に耐えられることである。(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版1946年より)
- ・ 一時的な敗北や失望に落胆する必要はない。こうしたものは時々必ずやってくるものだ。これらは、我々の進歩に味をつけてくれるのである。困難を乗り越えて、私たちが目指す大きな意味を見つけよう。(ザ・スカウター1936年10月号より)

8. スカウトは感謝の心をもつ

- ・ 神を信じ、そのおきてに従わない人は決して良い人とは言えない。従って、全てのスカウトは信仰を持つべきである。(スカウティング・フォア・ボーイズ世界友愛版1946年より)
- ・ 自然研究の目的は、創造主である神を実感させる心を発達させ、自然の美しさが判るような感覚を注入することである。(ガールスカウト日本連盟発行「B-Pのことば」より)
- ・ 自然を研究すると無限のものや歴史上のもの、微小のものが、偉大な創造主のみ業としての調和のとれた統一体であることが判る。(隊長の手引き世界友愛版1944年より)
- ・ 一日の終わりに、たき火の小さな炎の上で、自分の食べものを調理するほど楽しいものはないし、その火の香りにまさるよい匂いは他にない。
丘の上の森の茂った山腹に作った君のねぐらから見える景色に勝るものはない。温かい毛布にくるまり、または身体の下に紙を厚くしいて、野外に寝るにまさる眠りはない。
(ローバリング・ツウ・サクセス1963年版より)
- ・ いまひとつは、もう一つの素晴らしい古典本、すなわち「大自然」という本を読むことである。そして、大自然が君をたのしませるためにつくった驚異と美について、できる限り観察し研究することである。それから、君は神が君に貸し与えた生命を燃やす間に、どうすれば神に対して最善の奉仕ができるかということに、君の心を向けることである。
(ローバリング・ツウ・サクセス1963年版より)

(2) 取得課目5～6は、日日の善行や奉仕活動として実践することを取り上げています。

5. 「アンノウスカウト」の逸話を調べ、適切な表現形式(劇、紙芝居など)で隊の仲間や他の人々に伝え、自分の「日日の善行」の実践のようすについて話す。
6. 班で年間を通じて行える奉仕活動を考え、隊長の指導のもとに実施する。
(ターゲットバッジG3「近隣奉仕」5と共通)

～支援のポイント～

- ・ 「アンノウスカウト」の逸話の表現形式は、劇や紙芝居の他、読み聞かせや朗読でもよい。対象は、隊の仲間の他には、保護者、地域の人々、カブスカウトやビーバースカウトなどでもよい。
(取得要件5に該当)
- ・ 班がその奉仕活動が年間を通じて継続してできるものか隊長として判断し、支援をすること。
(取得要件6に該当)

信仰奨励章取得のための手引き

① 日々の善行と奉仕活動の考え方

ベーデン・パウエルは、少年（少女）は生まれつき善いことをするという本能を持っているとし、善いことをする実際的な方法さえわかれば、善行という実践を通して、本能は満たされ、他の人に慈善の心を持った行動が伴うように発達していくとしています。なぜなら、善行を通して精神的な変化をもたらし、「何を自分自身は得ることができるか」ということから、「人生において私は何を与えることができるか」というものによって変わっていくからであると示しています。

また、奉仕の段階として、カブ年代では家庭において初歩的な善行をし、スカウト年代として、日々の善行と人命を救うための準備を経て、ローバー年代として、他の人々へ日常的に公共の奉仕をするようになるとしています。

② 神（仏）からいただいた贈り物

一人ひとりには、神（仏）からいただいた資質（贈り物・GIFT）を持っており、その資質を活かして他の人々の役に立つことは、神（仏）からいただいた贈り物を活かしたことになります。そしてそのことが神（仏）の御業（みわざ）を行うことになり、人として本当の幸福の意味を理解することになるとベーデン・パウエルは示しています。

【参考⑧：アンノウンスカウト物語と解説】

すでに様々なハンドブック等でご存じの方も多いと思いますが、この物語の概略は次のようなことです。

1909年の秋のことでした。①イギリスの都ロンドンは、この日も一日中濃い霧に包まれました。

アメリカのイリノイ州シカゴからロンドンに来た出版業の②ウイリアム・ボイス氏は、市の中心部で、ある事務所を探していましたが、道がわからなくて困り果てていました。そのとき霧の中からひとりの少年が近づいてきました。

「何かお役に立てることがありますか？」

と少年は言いました。事務所がわからなくて困っていることがわかると、少年は先に立って、その事務所までボイス氏を案内しました。

ボイス氏は、③アメリカ人の習慣で、少年にチップをあげようと、ポケットに手を入れました。しかしボイス氏がチップを取り出す前に、少年は勢いよく右手を挙げて敬礼をしました。

「僕はボーイスカウトです。④今日も何か善いことをするつもりでいました。お役に立ててうれしいと思います。スカウトは他の人を助けることで、お礼はもらいません」

と少年は言いました。少年からボーイスカウトのことを聞いたボイス氏は、用事を済ませてから、

信仰奨励章取得のための手引き

少年にボーイスカウトの本部まで案内してもらいました。ボイス氏が少年の名前を聞く前に、少年はもう姿を消していました。

イギリスの本部でボーイスカウトのことを詳しく調べたボイス氏は、アメリカに帰ってタフト大統領に話しをし、やがて、アメリカでボーイスカウト運動が始められたのです。その少年はどうなったのでしょうか。その後誰も知りません。しかし誰も知らないこの⑤少年の小さな善行が、アメリカのたくさんの少年に、ボーイスカウトを伝えるもとになったのです。

用語の解説

①霧のロンドン

北大西洋海流と呼ばれる暖流が、暖かく湿った空気を運ぶので、ロンドンでは冬季は霧が発生しやすくなる。ロンドンが「霧の都」として有名になったきっかけは18世紀半ばのこと。産業革命が始まり、石炭を燃やしてできる煤煙と一緒に、黒い霧が発生するようになったことが始まり。

②ウイリアム・ボイス氏

スカウト運動をイギリスよりアメリカへ最初に紹介した人物。ロンドンのスカウト本部から多数の資料を持ち帰り、1910年2月8日にアメリカのボーイスカウトが発足した。後に、この功績が讃えられ、アメリカのスカウト功労章である「シルバーバッファロー章」が贈呈された。

③チップの習慣

チップとは、サービスの利用に対して規定料金とは別に支払う、心づけの現金を指す。その昔、欧米では、サービス業の賃金が安く設定されていたことが多く、チップがサービス業で働いている人の生活給となっていると言われていた。

④日日の善行とチップ

B-Pの著書「スカウティング・フォア・ボーイズ」に「スカウトは仕事の報酬でない限り、決してチップは受け取らない。チップを出されたら、時として断るのは、なかなか難しいこともある。しかし、スカウトなら簡単である。「ありがとうございます。しかし、私はスカウトで、善いことをした時には、何も受け取らない規則になっています」と言うだけでよい」と記されている。

⑤ボイス氏を案内した少年(無名のスカウトの善行)

アメリカでボーイスカウトが発足して15年後には、100万人を突破し、第一の功労者として、この少年に「シルバーバッファロー章」を贈ることになるが、少年は見つからず、少年への感謝の意を込めて、アメリカ連盟は、イギリスにあるギルウェル・パーク(指導者訓練センター・国際キャンプ場)に、スカウト功労章であるバッファローの銅像を贈ることにした。

1926年6月4日に、その贈呈式が行われ、当時の皇太子である、プリンセス・オブ・ウェールズがスカウトの制服を着用して受け取られた。この銅像には、「日日の善行を努めんとする一少年の忠実が、アメリカ合衆国にボーイスカウト運動をもたらした。名の知れざる少年のために」と刻まれている。

信仰奨励章取得のための手引き

【参考⑨：ベーデン・パウエルという言葉】

1. 善行

少年は、それを実際に行うやり方さえわかれば、善いことをするという本能をもともと持っている。この善行という務めは本能を満たし発達させる。(中略)

善いことをしようという気持ちを少年が表現することは、教訓めいた教えを受動的に受け入れるよりも、もっと効果的で、彼にとっても自然なものであり、スカウトのやり方により合致するものである。
(「隊長の手引き」新訳版より)

2. 贈り物

ほとんどの人はいわゆる「天分 (GIFT)」と言われるものを隠し持っている。ある者は生まれつきの画家だったり、俳優であるかもしれないのに、食料雑貨店に勤めていたり、大工さんとして働いている。またある者は、巧みな手品師や歌手であるかもしれないのに、ウェイターや機関車の火夫をして生計を立てている。

ではなぜ、「天分 (GIFT)」と言われるのであろうか？

そう、それは本来的な資質—神から与えられた贈り物 (GIFT)—だからである。それ故、その資質を持っている者は神のためにそれを役立てるべきである。このことは、その贈り物を他の人々に再び与えることによって可能となる。

自分の才能を自分自身のためよりも、他の人の役に立つようにしなさい。そうすれば神の御業 (みわざ) を行うことになるし、また幸福の意味を見いだすことにもなる。

(ローバリング・ツウ・サクセス 1922年版の1959年再版 より)

3. 心の全面的変化をもたらすもの

自己を抑えて、他の人に対する愛と奉仕の心を育むことは、神が心に宿ることであり、その人の心を全面的に変化させてしまうものであり、それは真の天国の栄光をもたらす。これは、彼を別の存在にするものである。

彼が問うのは「何を得ることができるか」ではなく、「人生で私は何を与えることができるか」というものになる。
(「隊長の手引き」新訳版より)

4. 家庭から始まるもの

少年たちは「奉仕」を教えられるものである。最初はウルフカブとして母親に初歩的な善行をし、スカウトとして、日々の善行と人命を救うための準備をすることを経て、最後にローバーとして、他の人々へ日常的に公共奉仕をするようになる。(ザ・スカウター 1924年1月号より)

(3) 取得課目7～8は、明確な信仰に触れることを取り上げています。

7. 自分の家の宗教 (派) か、興味を持った宗教 (派) の宗教儀礼、宗教行事、またはスカウツハウン・サービスに参加する。

8. 自分の家の宗教 (派) か、興味を持った宗教 (派) の教導職から信仰や宗教について話を聞く。

信仰奨励章取得のための手引き

～支援のポイント～

- ・スカウトタウン・サービスには、少なくとも複数回は参加することとし、その様子を感想文などでまとめる。 (取得要件7に該当)
- ・お話を聞いた感想を感想文などでまとめる。 (取得要件8に該当)
- ・感想文については、ただ「良かった」「つらかった」、実施内容だけではなく、これからの自分に何ができるかなども書いてみる。 (取得要件7・8共通)

① 明確なる信仰への入り口へ

大自然の中での活動、スカウトタウン・サービスを通じての「ちかいとおきて」の実践、さらに、善行や奉仕活動の取り組みを積み重ねてきましたが、これまでの実践を通し、自分の心と向かい合う中で、自然や人の心は人間の意思では自由に動かすことができないという心をつちかってきました。

ここからは、その奥にある「目に見えない世界」に働く神仏の存在を明確にするためにも、一步踏みこみ、自分の家の宗教（派）か、自分の興味を持った宗教（派）に触れる機会を作ります。

② 宗教儀礼や宗教行事などの形から入る

ベーデン・パウエルは、最初からあまりに精神的なものを追及するより、実際的な宗教活動を行うべきであるとして、形から入ることとしています。

その一つの方法として、教導職から信仰や宗教についての話しを聞くことによって、抽象的なイメージであった神仏の存在を明確にし、宗教章への関心を持たせるように導いていきます。

(4) 取得課目9は、ラストメッセージの意味を深く掘り下げて、考えることを取り上げています。

9. B-Pのラストメッセージを読んで、班集会で話し合う。

(ターゲットバッジA8「B-P」6と共通)

～支援のポイント～

- ・ラストメッセージを読んで、一人ひとりで感想を述べ合うのではなく、ラストメッセージの中でポイントとなる文面を取り上げ、そのことをテーマに話し合っていく。またポイントとなる文面は複数箇所を示し、そのテーマごとに話し合った結果、何を目指し、何をしたいのか決意する。

① ラストメッセージの意味を考える

スカウトタウン・サービスを通じての「おきて」の実践、日日の善行や奉仕活動の継続的な実践、さらに宗教儀礼や行事、教導職からのお話を聞く機会を積み重ね、ものの見方や考え方が変わってきたことと思います。このことを通して、ラストメッセージに書かれている言葉だけを捉えるのではなく、その奥にある意味をみんなで考えます。

そして、このラストメッセージを心に刻み、さらなる信仰奨励章の取得要件への取り組みを積み重ねていきます。

信仰奨励章取得のための手引き

② 信仰奨励章は、取得後も続きます

信仰奨励章は、取得課目をクリアすると記章が交付されますが、この取得課目を繰り返し実践することで、信仰心は深く心に刻まれ、より自分の心と向き合い、その結果、神仏や創造主と向かい合うことができ、「無私の善意と協力の精神」に対する想いと実践が深まっていきます。

「本連盟は、本運動に参加する者が明確な信仰を持つことを奨励する」という教育規程に基づき制定された宗教章の取得に向かう気持ちがより高くなることでしょう。

【参考⑩：ベーデン-パウエルの言葉】

～ラストメッセージ～

スカウト諸君

ピーターパンの劇を見たことのある人なら知っているだろうが、海賊の首領は、自分が本当に死ぬときにはきっとその時間がないに違いないと考えて、いつも死に際の挨拶をしていた。

私もそれと同じように、今すぐ死ぬわけではないにしろ、その日も近いので、とにかく君たちへの最後のメッセージを贈ろうと思うのだ。

これが私から諸君への最後の言葉になるのだから、しっかりと心に受けとめ、何度でも思い出してもらいたい。

私は非常に幸せな生涯を送った。私は諸君たちにも私と同じように、幸せな人生を送ってもらいたいと願っている。神様は、幸福に暮らし、人生を楽しむようにと、この楽しい世界に私たちを誕生させてくださったのだから。

幸せは、金持ちになっても、社会的に成功しても、そしてすべてが自分の思い通りになっても、手に入るものではない。

幸福への第一歩は、少年のうちに健康で強い身体を作っておくことである。そうすれば、大人になったときに世の中の役に立つことができ、人生を楽しむことができるのだ。自然をよく観察すれば、神様が、美しいものや素晴らしいものでこの世界を満たし、諸君が人生を謳歌できるように作られたことがよくわかるだろう。

与えられたものに不満を抱くことなく、最善を尽くしなさい。物事の悪い面ばかりに目を向けるのではなく、良い面を見るようにしなさい。本当の幸せは、ほかの人々が幸せなるように力を尽くすことによって得られるものなのだ。自分が死ぬ時には、自分が生まれてきた世の中よりも、ほんの少しだけでも良い世界になっているように努力をすれば、自分は時間を無駄にせず、最善を尽くしたのだと感じ、幸せに死を迎えることができる。

幸せな人生を送り、幸せな最期を迎えるために、「そなえよつねに」を忘れずに、大人になるまで、そして大人になっても、スカウトの「ちかいとおきて」を守るのだ。そうすれば神様は、いつも諸君をお守りくださるだろう。

君たちの友

ベーデン -パウエル・オブ・ギルウエル

(これは1941年1月8日にベーデン-パウエルがなくなった後、彼の書きものの中から発見された) (「ボーイスカウトが目指すもの」イギリス・スカウト連盟編 山と溪谷社出版より)

信仰奨励章取得のための手引き

6. 信仰奨励章交付申請方法について

信仰奨励章は、隊長が認証して団委員長に申請します。最後のページに「交付申請書」書式例を掲載します。

この書式例は、日本連盟ホームページにも掲載してありますので、ご活用ください。

http://www.scout.or.jp/for_members/program/shinkousyousei/index.html

信仰奨励章は、一般財団法人ボーイスカウトエンタープライズよりご購入ください。1枚、108円です。

信仰奨励章取得のための手引き

平成 年 月 日

ボーイスカウト 連盟 第 団 団委員長 様

信 仰 奨 励 章 交 付 申 請 書 (例)

_____ 隊

隊長 _____ (印)

教育規定 7-6-1 により、下記のスカウトについて信仰奨励章の交付を申請します。

記

No.	氏 名	登 録 番 号	年 齢	進 級 章
例	大 沢 健 児	〇〇〇〇-〇〇〇〇〇〇	1 2	1 級 章
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

計 _____ 人

団 処 理 欄		
受 理	団 委 員 長	交 付
平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日